

看護

Graduate School of
Science for Human Services



Graduate School of
Science for Human Services



Graduate School of
Science for Human Services

「対人援助実践学」の創造を目指す

応用人間科学研究科 修士課程

教育

Human Services

入学者の半数は「現職」社会人! 「夕暮れ開講」を実施!

Graduate School of
Science for
Human Services



心理



Graduate School of
Science for Human Services



新

現職社会人にも対応しています 新しい世紀にふさわしい大学院教育のために

立命館大学大学院応用人間科学研究科は、21世紀の幕開けとともに開設された生まれたばかりの大学院ですが、その研究使命は人間諸科学の「連携と融合」を図り、新たな対人援助学の構築に寄与することにあります。

対人援助活動は人が人として生きるうえで不可欠の営為です。教育や心理相談、発達障害や看護、介護や福祉、あるいは家族病理や社会病理その他、あらゆる分野において不可欠の営為です。では、いったい何のために対人援助活動に入る必要があるのでしょうか。これについては、それによりはじめて人は存在していること、生きて在ることに充実感を感じるからだと思いたいです。いわゆる「自己中心的」では、存在の充実、生の充実は得られないのです。人が本当に生きていけると言えるのは、対人援助活動に入っているときです。たしかに対人援助活動は重荷を伴います。時には耐えがたいほどの重荷を伴います。こんな重荷を伴う対人援助活動から解放されれば、どれほど楽だろうという思いにかられることもあるでしょう。ところが、いざ解放されてみると、当初はほっとするものの、そのあとに来るものは、何とも言えない虚脱感・空虚感ではないでしょうか。解放されたら、あれもしよう、これもしよう、そうしたら、どんなに楽しいだろうと思っていたのに、いざ解放されてみると、何をやっても充実感が無い。いったいこれは、どういうことでしょうか。人が充実感を感じるのは結局、人のために何かをしているときです。人のために働き、人のために努力しているときです。たとえそれがどれほど重荷を伴うものであろうと、そこにしか本当の充実はないのです。ここに深い人間の逆説性があります。

本大学院の使命は、こうした対人援助活動にしっかりとした学問的バックボーンを与えようとするものです。従来の

対人援助学は、「全体としての人間」をばらばらに分割し、心の問題は主として心理学や宗教学で、身体の問題は医学・生理学で、教育の問題は教育学で、看護の問題は看護学で、福祉の問題は福祉学で、制度や組織の問題は社会学や政治学でという具合に細かく細分化されたかたちで取り扱ってきました。本来、統合学の責務を担っているはずの哲学すら文献学的な哲学史研究に閉じ込めがちなのが現状です。これでは「全体としての人間」は見失われざるをえません。それに対して、我が大学院のめざす使命は、人間諸科学の「連携と融合」の理念のもと、統合的(インテグラル)な対人援助学を構築することにより、「全体としての人間」を取り戻そうとするものであります。

その意味で本大学院は他に類を見ない研究科であり、非常に活気に満ちた研究の場だと自負しております。高い研究意欲に燃えた皆さんがたの入学を熱望しております。もちろんそれに応えるべく、私たちスタッフも新たな対人援助学の構築に向けて、全力で皆さんがたと共に学び、共に研究していきたいと願っております。そして本大学院での研究活動が皆さんがたにとって、今後の対人援助活動において、ひいては生きることそのことにおいて、大きく深い支えになってくれることを期待してやみません。

応用人間科学研究科長

林 信弘



カリキュラム について

対人援助の幅広い領域に 人間科学の視点からアプローチ。

応用人間科学研究科の教育・研究の対象は「対人援助(ヒューマンサービス)の科学」です。これには、直接援助の技法と理論だけでなく、援助者の援助(間接援助)、援助システムの構築なども含まれます。本研究科は、こうした一連の対人援助の諸分野における高度専門職業人の養成をめざしています。

さらに、より発展的な研究・実践の推進をめざし、心理・教育相談センター、人間科学研究所、学術フロンティア推進事業(対人援助と人間環境に関する総合研究プロジェクト)と積極的に連携しています。

臨床心理学領域と対人援助学領域の 二つの体系的カリキュラム。

本研究科は2つの領域を開設しています。各々の領域に対応した高度専門職業人の養成を目標としています。そのため、社会科学的なマクロ的視野と対人援助技術を有機的に結びつけることを重視したカリキュラムを設けています。

本研究科では対人援助の現場で活躍する実践家を「社会人自己推薦入学試験」方式で受け入れています。

対人援助学領域の講義時間帯は、現職社会人にも対応するために、5時限目以降の夜間時間帯を中心に、夏期・冬期集中、土曜日集中などを取り入れています。

資格等について

「教育職員専修免許状」は中学校専修・社会/高等学校専修・公民の所要資格が得られるカリキュラムを用意しています。

<臨床心理学領域>

「臨床心理学領域」は(財)日本臨床心理士資格認定協会の定める平成17年度以降適用のカリキュラムに対応した科目を設置し、協会による臨床心理士第1種大学院の指定を受けています。

<対人援助学領域>

「対人援助学領域」は「学校心理士」の資格取得にかかわる科目を用意しています。

臨床心理学領域

● 主要な科目 ●

臨床心理学特論Ⅰ
臨床心理学特論Ⅱ
臨床心理学基礎実習
臨床心理実習
臨床心理査定演習Ⅰ
臨床心理査定演習Ⅱ
臨床心理面接特論Ⅰ
臨床心理面接特論Ⅱ
臨床心理学特別演習
臨床心理学演習Ⅰ
臨床心理学演習Ⅱ
臨床心理学演習Ⅲ
心理学統計法研究
発達心理学特論
教育心理学特論
認知心理学特論

社会病理学特論
家族心理研究
精神医学研究
老年心理研究
学校臨床心理学研究
グループ・アプローチ研究
心理療法特論
臨床心理地域援助特論Ⅰ
臨床心理地域援助特論Ⅱ

■心理臨床

「心の苦悩に寄り添いながら、
その解決の道を模索する」

様々な心理的問題をかかえた人々に対するアセスメントや個人的・集団的治療・援助の実際につれながら、臨床心理学の基本問題、技法、事例などについて、各担当者の専門性（病院臨床、教育臨床、文化・社会臨床など）を生かして研究します。また教員相互、院生相互の研究交流を通して、自らの心理臨床実践の専門性や問題意識を深めていく場として位置づけます。



対人援助学領域

● 主要な科目 ●

対人援助学演習Ⅰ
対人援助学演習Ⅱ
対人援助学演習Ⅲ
対人援助学研究法Ⅰ
対人援助学研究法Ⅱ
対人援助学研究法Ⅲ
対人援助実習
対人援助学特論

応用人間科学研究法
対人援助学特別演習
人間形成学特論
臨床教育学研究
行動分析学特論
精神保健福祉研究
発達障害援助研究
家族療法・家族面接技法

コミュニティ援助研究
生徒指導・進路指導研究
対人関係援助技術研究
教育評価・心理査定研究
組織行動援助研究
発達心理学研究
臨床心理学研究
障害学研究

福祉臨床学研究
学校カウンセリング研究
応用人間科学特論
ソーシャルワーク研究
ケアリング研究
臨床倫理研究
司法臨床研究
比較人間科学研究
比較文化臨床研究

対人援助学領域では4つのクラスターを置いています

■人間形成・臨床教育

「心の教育」とは何か?そのあるべき姿を探る。

第一に「心」とは何かという、心の構造分析にかかわります。教育学はもとより、哲学、心理学、精神医学、人類学、宗教学など多様な諸科学の知見をベースに「心」の理論的分析をおこなうと共に、実践的分析もおこないます。

第二はあるべき「心の教育」の探究に関わる部門。家庭内の育児やしつけ、学校における生活指導・道徳教育・宗教教育、心の教育の比較文化的視点などを取り上げます。



■障害・行動分析

「障害」のある個人に対する
総合的対人援助を研究。

広義の「障害」を持つ個人を対象に、各個人がより十全な生活を送れるようにすることを目標とします。諸活動を可能にするための教育・訓練プログラムの作成とその実践（教授的アプローチ）、障害をもちながらも先送りすることなく社会参加を可能にする援助機器や人的援助システムの設計・設定（援助的アプローチ）、それを環境に定着させるために周囲に要請する作業（援護的アプローチ）の3つのアプローチをもとにして研究・実践していきます。

■家族機能・社会臨床

家族機能障害と社会病理について研究。

現代の家族が抱えるさまざまな機能障害を、社会行動学的、臨床社会学的な観点から総合的に明らかにします。家族関係の動態や社会病理を把握するための基礎理論と技法、家族療法についての基礎理論、臨床社会学的アプローチ、社会的相互作用過程分析、社会病理についての基礎データ分析手法、ジェンダー・アプローチなど、具体的な事例分析を通して学習します。

■発達・福祉臨床

人間のライフステージに対応した発達援助や
福祉的ケアの諸問題や方法論を研究する。

誕生から死をむかえるまでを視野に入れて、それぞれの時期に直面する「発達の危機」に対応した発達援助や福祉的ケアの諸問題や方法論を研究します。特に、乳幼児期の子育て支援、親子関係、発達相談活動、学齢期・青年期の発達支援や福祉的ケア、成人期・高齢期の心理的特徴や福祉的ケアなどを人間発達の諸理論や援助方法論と関わらせて検討していきます。



修士論文テーマ

人間形成・臨床教育クラスター

- 対人援助とは何か 一鈴木大拙の思想に学ぶ
- 青少年の非行防止プログラムについて 一身体側面へのアプローチ
- 中学校における平和教育の実践と今後の課題
- ケアの人間学 一「ケアを受ける側」の視点から
- 学校現場から見た司書教諭の役割と展望
- シュタイナー治療教育の原理と展開 一川手鷹彦の治療教育実践について
- 死の不安の受容 一ハイデガーの「存在と時間」をめぐって
- 病院と死 一近代の医療環境の中でいかに死を迎えるか
- ルソーの思想における「人間の善性」についての考察

家族機能・社会臨床クラスター

- 中絶・出産の社会的決定要因 一レイプ被害者サポーターへのインタビュー調査から
- 看護職のキャリア開発に関する一考察 一看護師が語るキャリアからの分析
- 精神障害者小規模作業所における作業の意味分析
- ドナーからみた生体肝移植 一グラウンデッド・セオリー・アプローチによる家族・医療者との相互作用過程の分析
- ステップファミリーにおける継家族間葛藤とその支援構築 一インタビュー調査を通して
- 「埋もれた存在」からの脱却 一中国帰国者、支援者のライフストーリーからみる移住の構図
- 小さなあざが持つ大きな力 一あまいな「あざ」をめぐる微視的相互作用の分析
- 生活場面の移行を援助するソーシャルワークの事例の研究
- 育児と介護の同時負担が家族に及ぼす影響 一母娘関係に焦点を当てて

障害・行動分析クラスター

- 通常学級にいるADHD児への受容的環境を用いた特別支援についての考察

- 高次脳機能障害の少年に対する支援 一算数文章題を図式化することによる学習効果に就いて
- 慢性期失語症者の地域生活成立に向けての行動分析的アプローチ 一言語臨床におけるパラダイム・チェンジ
- 重度知的障害がある生徒に対する「選択決定」スキルの指導 一否定スキルの体系的な指導方法の確立に向けて
- 痴呆性高齢者のQOL 一選択機会設定による痴呆性高齢者の活動性の増加の検討
- 薬剤師の役割と今後の展望 一情報提示のあり方により見えてくる薬剤師と患者の相互変化
- 患者・障害者への介助を通して理学療法士の行動変容を考える 一応用行動分析学を用いて
- 自閉症児における仲間との「相互援助」の成立条件の検討 一協力型ゲームと対戦型ゲームの比較

発達・福祉臨床クラスター

- 自閉症児のふり遊びの発達と三項関係の形成過程との関連性
- 心臓手術経験者の退院後の生活問題に関する研究
- 青年期の統合的依存性に関する調査研究 一学生と社会人の比較から
- 知的障害児通園施設における自閉症幼児の音楽リズム活動について 一切り替え・同期・対人関係の構築の視点から
- 高齢者に対する音読・計算による認知リハビリテーションの効果 一抑制機能を中心として
- 青年・成人・高齢者を対象とした「居場所」に関する横断的研究 一人は何に場の快適さを感じるのか
- 幼児期前半における表象機能の発達
- 祖父母と孫の心理的関係 一孫の存在の意味
- 中国における自閉症スペクトラム児の発達支援に関する研究

心理臨床クラスター

- 小学生の学級適応感に関する臨床心理学的研究
- 思春期女子の自己形成についての一考察 一「演じ」体験の意味を通じて
- パニック障害と生きる 一パニック障害当事者の自己提示と統制についての質的研究
- 現在の日本における男性の「中年の危機」の研究
- 「神経衰弱」と生きる 一漱石の歩んだ道のり
- 老年期における発達課題と基本的信頼感 一高齢者の人生物語より
- 不登校傾向を示す児童に対する学校を中心とした援助のあり方 一小学校におけるメンタルフレンド活動を通して
- ターミナル期における患者と家族の心理過程 一父と娘の心理面接過程を通して
- アトピー性皮膚炎の経験と葛藤 一青年期における心理・社会的問題について
- ウガンダの元子ども兵に対する自立支援の現状とそこから見える「援助」の本質 一元子ども兵が捉えるSmile Houseのコミュニティを活かした取り組みから
- 児童虐待問題はどのようにとらえられているか 一大学生のアンケート調査を手がかりとして
- 最近の若手社員における“心の病”の増加傾向とその要因に対する一考察
- 働く母親とその子どもは母親の就労をどう認識しているか 一発達における心理的变化に着目して
- 人工妊娠中絶に対する心理的援助の可能性を探る 一赤ちゃんを愛し続ける女性の語りから
- うつ病による休職者を対象とした復職支援プログラム効果評価の試み
- C型肝炎を患う患者の「病の受容」に関する考察 一病の語りからみる、病の受容要因と受容のあり方
- ひきこもり状態を呈した女性の生涯発達過程に関する事例研究 一関係性の観点から

※修士論文内容の要約は研究科HPでご覧いただけます。

入学試験について

一般方式をはじめ、社会人一般方式、社会人自己推薦方式、社会人協定方式による入学試験を行っています。受験資格などの詳細は入試要項や研究科ホームページにてご確認ください。

社会人自己推薦入学試験により入学された方の勤務先等は以下のとおりです。

社会人入学者勤務先(例)

- 青少年活動センター ユースワーカー
- 精神障害者通所授産施設 指導員
- 京都市子ども支援センター 地域活動員
- 心理療育施設 指導係長
- 公共職業安定所 精神障害者担当職業相談員
- 保健所・公立幼稚園 相談員
- 精神障害者地域生活支援センター ソーシャルワーカー
- 民間企業 コンサルタント
- 保健所 看護師
- 市役所 保健師
- 肢体不自由児施設 看護師
- 医科大学附属病院 理学療法士
- 精神科診療所 心理士
- 財団法人YMCA 講師
- 神戸市立小学校 教員
- 門真市立小学校 教員
- 神戸市立高等学校 教員
- 京都市立高等学校 教諭
- 京都府立高等学校 教諭
- 京都府立養護学校 教諭
- 看護専門学校 教員
- 看護短期大学 教員
- 医療短期大学 教員

修了者の進路・就職先(例)

- 医療関係出版社
- 精神保健福祉総合センター
- 子ども家庭相談センター
- 老人総合センター
- 心理判定員
- 児童養護施設 児童指導員
- 知的障害児通園施設 発達相談員
- 介護サービス相談センター 専門相談員
- 児童福祉施設 専任職員
- 重度知的高社授産厚生施設 支援職員
- 障害者職業センター 職業カウンセラー
- 国立療養所 看護師
- 医療福祉専門学校 講師
- 福祉専門学校 専任教員
- 高等学校 専任教員
- 私立大学 実習助手
- 医科大学 助手
- 看護大学 専任講師
- 私立大学 専任職員
- 立命館大学大学院文学研究科 博士課程後期課程進学
- 立命館大学大学院社会学研究科 博士課程後期課程進学
- 立命館大学大学院先端総合学術研究科博士課程(一貫制)進学

立命館大学 応用人間科学研究科

立命館大学応用人間科学研究科ホームページ URL <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/gr/gsshs/>

〈衣笠キャンパス〉〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

お問合せ先 独立研究科事務室 Tel.075-465-8375(直通) 入試要項請求先 立命館大学入学センター Tel.075-465-8240